九月十三日　樋之内出身で、戦後の葛塚小学校長五十嵐英次先生が、去る一日新潟市で死亡されたとのこと。「私は若い教員のころ、生徒から見られるところで小便しなかった。一般の人とは違う、という聖職意識ですね」と言われたことを思い出す。時代も変ったが、もうこういう先生はいない。ご冥福を祈る。

九月十四日　〝急降下爆撃のグラマンを迎撃す　機首そらすあり煙噴くもあり〟我慢会に一等なりし巡査の兵　栄養注射をと言ひつつ死にたり〟大局は如何に問ひば前線を　激励に来し参謀言ひ淀みたり〟戦場に訓話をなせし夢を見き病室の闇のただ深きかな〟

これらの歌は、近ごろ評判の昭和萬葉集のものでない。土田酒造の営業部長伊藤志智郎さんの歌集「あしあと」七百余首の一部である。伊藤さんの軍歴は私にとって特に関心が深い。私と同じ高射砲兵である。陸軍士官学校五十四期生で、一期後輩の私の弟と同じ学校にいた。南方戦線で負傷して後送の一時期、弟が工兵中隊長をしていたブーゲンビル島ブイン で、兵站病院にいたことがある。多くは胸をうつ戦争の歌だが、平和な生活の近作もある。今後も続けていい歌を詠んでほしい。

九月二十六日　新任の助役と収入役の選任につき議会の同意を得た。行政経験豊かな二人に事務のほとんどを任せ、私は市政の重要事項にうち込める。前任者同様、市民のご理解とご協力を願いたい。

市長の日誌　石井新一

九月二十八日　全国戦後強制抑留補償要求推進協議会豊栄支部の発会式が中央公民館で行われた。私は沖縄戦で衰弱の極に達し米軍の捕虜となったが、五か月後には概ねもとのからだになって帰国した。シベリヤ抑留者は極寒の地に三年も五年も重労働に従事した。帰国できた者はまだいい方である。異国の土となった者が五万数千人ある。「屍壁の母」が今も国民の胸をうつわけである。これは日本国に代つて戦時賠償を果したのだから、政府にその補償を要求しよう、というもの。支部会員は一五〇人で、支部長は長場堰蔵市議。

十月三日　今夕オークラホテルで日ソ沿岸市長会議訪ソ団の結団式を行い、明日新潟空港を出発する。会場はブリヤーク自治共和国の首都ウランウデ。ハバロフスク、イルクーツク、レニングラード、モスクワでも市の執行委員会と懇談、または関係訪問などをして、十四日成田空港へ帰る予定。私自らの見聞をひろめることもあるが、新潟東港に臨む国際都市の市民であることの自信と誇りを皆さんからもってもらうことがより大きな目的。会議における私の基調演説のテーマは「都市の住宅政策と市民サービス」となっているが、ソ連材の安定供給につき要望するつもり。

ありがとうございました

○市村雄示さん（大久保）
心身障害児のためにと
五〇、〇〇〇円
○早川ケイ子さん（笠柳）
香典返しを福祉基金へ
五〇、〇〇〇円
○豊栄ライオンズクラブ（会長渡辺正）福祉基金へ
一〇〇、〇〇〇円
・公園用ごみ入れ　三個
・国民年金法施行三十周年
横断幕　一枚
広告塔　一基

やあ!! おげんきですか

水彩で郷土を描く　五十嵐道雄さん（相生町 47歳）

印刷業のかたわら移り変わる水郷の絵を書き続け、新潟市のデパートで個展〈水郷とよさかを描く〉を開いた五十嵐さんを訪ねました。

――個展おめでとうございました。

「いやあ、求英会のグループや皆さんのおかげです」

――半数以上が福島潟と新井郷川の絵ですね

「子供のころから心のどこかに離れることのない水郷の姿が、どんどんと変わってさみしい気がします。それで水郷を書き続けています」

――水彩が専門のようですが

「農商学校のとき、阿部和三先生の影響を受けました。それに、戦争後、まちの人たちが集まってラ・ニイゴー展がたびたび開かれ、それに感動したことを覚えています」

――水彩は、あっさりしたのが特徴ではないのですか

「水彩でも油に負けないのが書ける気がします。薄い水彩を重ねてこくを出して」

これからも豊栄の風景や古い建物を描きたいと語る五十嵐さん

――絵は、現場で全部書くんですか。

「七、八割は現場です。迫力と感動があるんです。なにか感動させたかを探し出し、それと絵が一致したとき良い絵ができるようです」

――五十嵐さんの絵はへんてつもない見慣れた風景なんですが――

「平凡の片すみにある美しい風景を見落しているんですね。少し目の位置を変えると、新井郷川沿いなどには、まだいくらでも画材がありますよ」

――仕事もいそがしいようで

「日曜が雨だと、仕事を夜に回して平日出かけます。五頭山や潟が一番きれいなのは、二時から四時過ぎの間ですから」

――古い民家や農家の庭先の絵も多いようですが、

「はい――これも郷愁ですね。それにけやきの大木が少なくなりました――。木崎方の力景色も変わりました」

――弟さん（信介さん）も絵を書かれますが、二人で絵の話などは。

「激論することもあります、育った年代が違うんで――。二人の絵が同じでは困ります」

――これからも水郷を――

「潟や新井郷川だけでなく豊栄の風景と、古い建物などを書いて郷土の記録とします。また、私の足跡としても」

「絵を書いているときは、だれも近づけません。仕事より難儀といいますが、けっこう楽しいんでしょう」と、奥さんのミツエさん。

日本水彩画展、県展に各八回入選、日本水彩新潟支部会員

郷土の出は語る

(18)

高森と松影遺跡

高森と松影遺跡

四五千年前の中期縄文から三四千年前の後期縄文になりますと、火焔式土器のような豪華な隆線模様がすり消し縄文にかわります。すり消し縄文というのは全体に縄文をつけ線で区かくした後へらなどで縄文をきれいにすり消す新しい手法です。線で区かくしてから縄文をつけることもあります。その分布は北海道から九州までの広い地域におよんでいます。この後期縄文の遺跡は第二砂丘の聖籠町二本松と豊栄市高森と第三砂丘の松影と非常に少ないのです。

高森遺跡

昭和十二年県発行の新潟県に於ける石器時代遺跡調査報告に、岡方村大字高森、海抜十八米位の砂丘中より多数の縄文、弥生、祝部等が発見せられ、縄文系のものは、塔ケ崎式、並に三佛生式に属する。と書かれ又写真もせられています。その写真の説明に

型式三佛生式

出土地北浦原郡岡方村高森

所蔵者紫雲寺村大木金平氏

土器の解説に口縁に近く磨消してそれに二條の横線を施しその間に斜に圧痕を与へ雄麗なる渦巻の凹文を附加す。下腹部は細かき縄文を列すとあります。塔ケ崎式とは頸城村塔ケ崎で中期後半を代表し、三佛生式とは小千谷市三佛生で後期遺跡でともに有名です。祝部とは須恵器のことで、高森は中期後半から古墳時代までつづいた遺跡なのです。昭和八年十月八日私は高森薬師様の下の畑から土師、須恵器の古墳土器を採集しましたが縄文、弥生をみたことがないので大木先生の遺品を是非拝見し報告したいと思います。

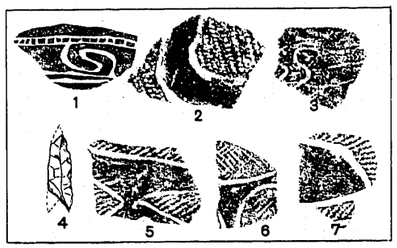
図の1は写真を模写したものです。

松影遺跡

松影の上はずれの小高い砂丘畑から縄文土器もかけた石鏃も昭和八年十一月二十三日に採集したものです。城山から松影、今鉄工団地になった佐々木山にかけて北側に面して縄文、弥生、土師、須恵の遺跡が沢山ありますが古代は加治川が流れて居ったと考えられます。

―畠山佑二記―

後期縄文 (4,000~3,000)



1高森　2－4松影　5－7聖籠町二本松

はしー

(7) 長老橋

暴れ川の呼び名高い駒林川そこに架かっている一つに、長老橋があります。

橋の近くの佐藤藤一さん（七十歳、内沼）を訪ねました。

「この橋は、浦木と内沼を結ぶ橋でして、車のない時代は、今より重宝がられたんですよ、長老とは、橋の向こうの遠山工務店の向かいに、昔寺があって、（現在、長浦農協の倉庫）その寺に、お年寄りが住んでいたといいます。そのお年寄りを部落の人は、〝長老、長老〟と呼んでいたんですね。そこで、その人の名をとって〝長老橋〟と名づけたと聞いています。寺役に出るにも、橋がないと、こちらへ来れなかったのかも知れませんね」

以前は、よく、この川で子供が死んだと聞きますが苦労しています。今でも、駒林川上流の京ケ瀬付近は、きれいに改修が終っていますが下流の私らのところは、この通りでしょ。鉄砲水ですよ。幾人もの人命を奪っているんですがね……」

「現在の橋は、三度目の橋でして、一番目の橋も覚えています。私が十歳のころまでありましたね。木の六尺橋でした。二番目は戦前に架けかえたんです。遠山工務店の先代が造ったんです。私も〝じゃらじゃらどん〟の綱引きのため手伝いました。枕ふりは〝新鼻の長谷川〟という人がいてね。この人が打った杭は県の役人が来ても、文句のつけようがなかったほど、しっかりしていたもんでしたね。資材は、全部、メートル寸法で入ってきましたね。今の橋は、初めてのコンクリート橋で、昭和二十七年にできました。高辰組に金子という人がいて音頭をとったものです」

「この道は、岡方から福島潟の潟端へ通じる道で、一時は盛えたんですよ。また、米の収穫期になると、新潟の通船川から舟が上ってきて、満杯に米を積んでいきましたね、その時の、船頭の歌に、長老橋の歌詞もありました。忘れましたが、おはら節のふしで――長老橋にもお月様、長老橋に舟が着く――と言った内容でした」

写真は駒林川に架かる長老橋、昭和二十七年にコンクリート橋になりました。